令和３年３月 25 日

県立港北高等学校長

令和２年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月２日実施）	総合評価（３月 19 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①新学習指導要領の主旨を踏まえ、生徒の特性等に応じた教育課程を編成し、適切に実施する。 ②社会の変化やニーズに対応し、生き抜くための資質・能力を養うため、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを推進する。 ③生徒会活動や学校行事等を充実させ、自主性・主体性・社会性を育成する。	①新学習指導要領に基づく教育課程を策定する。 ②ICT を活用した学習活動の活性化を図る。 ②学習保障の観点から臨時休業期間や分散登校中等の学習を充実させる。	①カリキュラム検討委員会を中心に新学習指導要領に基づく教育課程を編成する。 ①②授業づくりの指針である「港北の授業デザイン」を徹底するとともに授業力向上研修会（年5回）や研究授業（年2回）を通して授業力向上を図る。 ②ICTを効果的に活用し、課題の提供・回収、動画の配信、オンライン授業等を実施する。	①教育目標の実現に向けた教育課程が編成できたか。 ①②各教科の自己評価、生徒による授業評価、意識行動調査に改善がみられたか。 ②ICTを活用した授業が活性化したか。	①新たな教育課程を編成することができた。 ①②「港北の授業デザイン」について第１回授業力向上研修会を実施した。第2回同研修会は書面開催、6月研究授業は中止となった。11月の研究授業で個々の授業力を向上させた。 ①②臨時休業・分散登校期間にICTを効果的に活用できた。通常登校再開以降もICT活用を継続した。	①②来年度は、授業力向上研修会（年間5回）、研究授業（年間2回）を工夫して行い、さらなる授業力の向上に努める。 ②ICT の活用は技術的な問題のため担当者によって個人差がある。ICT 活用に関する研修会を増やして全職員が ICT を活用できるよう推進する。	①②コロナ禍の状況でやむを得ないことだが、授業力向上研修会の回数が未達であった。次年度は仕切り直しで強化の方向に向かうことが必要である。 ②Google Classroom の活用は、教員−生徒双方にとって浸透してきた。ICT化は教員個々の努力も重要だが、組織的な取り組みがより重要である。Zoom や Meet 等も一層活用してほしい。「主体的・対話的で深い学び」の実現目標については、ICTの活用・Classroom の活用で達成できていたことは評価できる。 ②臨時休校中でも生徒の学びを止めないという姿勢が感じ取れた。今後も継続してほしい。	①本校生徒のニーズに沿った新たな教育課程を編成することができた。この3年間「54 分授業・8分休憩」を実施してきたが、新教育課程の導入とともに授業時間の検討が課題である。今年度は手洗い等の感染対策のため 10 分休憩を継続したが授業間に時間的な余裕があったので継続したい。 ②「港北の授業デザイン」は工夫を繰り返し、わかりやすくかつ有効な形になったが、コロナの影響で研修や公開授業については縮小を余儀なくされた。回数の充実が課題である。 ②臨時休業中から教育活動再開後も、授業等でICTの効果的な活用を進めることができ、環境整備も整った。一方で、技術的に苦手意識を持っている教員は少なくないことが課題である。	①新教育課程検討と合わせて、「54 分授業・8分休憩」を抜本的に考え直し、「主体的・対話的で深い学び」のより効果的な実現を検討する。 ②今年度の取組の継続に加え、分析からの PDCA につなげながら「港北の授業デザイン」の一層の定着のため、研修や研究授業の質を高めるよう検討する。 ②ICTの効果的な活用については、技術的な問題を解消するために、研修会やマニュアル作りを充実させ、全職員で活用を推進できるような体制を構築する。
2	生徒指導・支援	①生徒一人ひとりが安心・安全な学校生活を過ごせるよう、教育環境や支援体制の充実を図る。 ②部活動を通して、協調性・責任感・連帯感の涵養を図るとともに自発的な行動力を育成する。	①支援教育について理解を深め、生徒一人ひとりの状況を把握し、情報共有して課題解決を図る。 ②新型コロナウィルス感染予防対策を踏まえ、部活動の指導・運営に係る体制を整備する。	①必要に応じてケース会議を開き、スクールカウンセラーを活用しながら適切に生徒を支援する。 ②生徒の健康面・安全面を配慮し、活動環境や内容を適正化して行う。	①組織的な支援により、課題解決につながる件数が増加したか。 ②部活動が効果的かつ円滑に実施できたか。	①全職員で情報共有を行い、アンケートでいじめ等の早期発見・防止に努めた。 ○ケース会議を計画的に実施し、生徒支援を実践した。 ○定期的な服装・頭髪指導を行った。 ○マナー意識向上の校外指導を実施した。 ②部活動は新型コロナウィルス感染予防対策をとりながら継続することができた。	①いじめなどの生徒指導事案に関して早期発見・対応に努める。 ○スクールカウンセラーに加えてSSWも含めて適切な活用の方策を実践する。 ○定期的にマナーアップ指導を実施し、生徒のマナーを向上にさせる。 ②感染予防対策を講じながら、安心安全に部活動を行えるよう環境整備に努める。	①新しい生活様式への転換の中、敏感な生徒にメンタル面の支援を継続してほしい。SSW 等の活用も必要である。 ①生徒指導は初期対応が重要である。アンテナを高くして取り組んでほしい。 ①学校外での行動でも通常の常識を守るよう指導を継続してほしい。 ②感染拡大防止の中、部活動の指導徹底も難しかったが、生徒の姿に指導の成果が見られ、再開・再生への努力が団結力や好循環な課題活動につながっていたことは評価できる。	①スマートフォン、SNSに関する問題行動が多様になっている中、スクールカウンセラー等に早い段階で相談し、助言を得ることができている。今後も多くの生徒、保護者がスクールカウンセラーを活用できるようにして、より適切な生徒支援を進めることが課題である。 ②コロナ禍の中、部活動では生徒主体の活動が大幅に制限されたが、安全面を配慮しながら活動を継続できた。今後、さらに感染対策を講じながら適切な指導を継続するための方策の検討が必要である。	①SNSに関する問題行動に対して、スクールカウンセラーも含めたケース会議等での情報共有、課題分析を通して、いじめ等の早期発見、早期対応等のより適切な支援体制を構築する。 ②感染症対策を万全にして、安心、安全な高校生活が送れるように十分かつ適切な指導や支援の方策を検討する。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 19 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月２日実施）	成果と課題	改善方策等
３	進路指導・支援	①3年間を見通した体系的なキャリア教育を実践し、生徒の自己実現力を高める。 ②生徒の個性や多様な進路希望に適した進路支援体制の充実、拡充を図る。	①キャリア教育を充実させ、自らのキャリアプランを構築できる資質・能力を育成する。 ②大学入試改革を踏まえ、外部機関等と積極的に連携し、情報収集を行い、進路ガイダンス体制を充実させる。	①「私の未来地図Ⅰ～Ⅲ」＜総合的な探究（学習）の時間＞を中心としたキャリア教育を実践するとともに、キャリアパスポートを効果的に活用する。 ②外部機関等を活用した研修会を実施し、学年に応じた適切な進路指導を行う。	①探究的活動が進展し、キャリアパスポートの活用が図れたか。 ②進学実績に反映できたか。	①②外部機関を活用し全学年で模擬試験の振り返りを行った。 ○リモート面接などへ対応するための生徒用説明会を実施した。 ②進路実績について、コロナ禍の中ではあったが、希望進路への達成度はほぼ例年通りの結果であった。	①②小論文模試を1年次から取り入れる等、3年間を通した進路指導を視野に入れていく。 ②希望進路実現に向けて、より丁寧な進路指導を継続する。	①　外部機関を活用していることは評価できる。 ①②小論文は読む力、表現する力が必要となるため、小論文模試の取り入れは評価できる。パフォーマンス課題等も検討してほしい。 ①②キャリア教育は、小学校から一貫した取組が必要になるが、高校では、将来へ向けてより具体的な自分探しの方策について工夫が必要である。	①「総合的な探究の時間」の実践が本格化した。今後より「探究」を重視した教育活動とキャリアパスポートの活用を進めることが課題である。 ②外部機関を活用して各学年の発達段階に合わせて将来を見据えた研修会や説明会を開催した。感染症対策のため放送等による説明会となったが、より効果的な情報提供の場となるよう工夫が必要である。 ②コロナ禍の中、新入試制度が導入されたが、ほぼ例年通りに希望進路の実現と進路実績を達成することができた。	①キャリアパスポートを効果的に活用し、1年次から3年間を見通したキャリア教育を一層充実させ、小論文模試の導入等を含めてあらゆる教育活動において「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。 ②校内外の関係部署との連携を深め、多様な進路希望に適した体制を構築する。 ②新しい大学入試の情報提供と進路相談を実現できるような体制を強化する。
４	地域等との協働	①地域との連携・協働により、「開かれた学校づくり」を推進する。 ②保護者・地域への情報提供に努め、家庭・地域の支援体制を充実させる。	①学校行事や地域防災等において、地域と連携した教育活動を展開する。 ②本校の教育活動や取組について、積極的に情報発信する。	①近隣小中学校との行事や地域との防災訓練等に積極的に参加する。 ②学校ホームページの内容の充実を図り、更新を積極的に行う。	①地域との連携・協働を推進できたか。 ②ホームページの更新回数が昨年度より増えたか。 ②中学生の志願者数に反映できたか。	①②地域貢献活動は規模を縮小した。 ②コロナ禍で学校紹介動画等を工夫して作成した。 ②1年生調査では11月学校説明会が学校選びに役立ったとの回答が23%だった。 ②11 月、12 月の学校説明会には定員満員の来校者があった。	①②県のガイドラインや感染防止の観点を重視しつつ、できる限り生徒の活動を保障できるよう、工夫していく。 ②閲覧しやすいホームページの構築に努め、情報発信の充実を図る。各担当者自らが記事を作成・掲載できるよう研修を実施する。	①コロナ禍で活動が制限された中でも、生徒個人の防災意識を高めることは可能なので、防災や防犯に関しても幅広い知識が得られるよう工夫が必要である。今年度はコロナ禍で交流そのものが難しい状況であったが、地域防災など小学校と連携をして、さらに地域の中にある公立校としての存在価値が高まるよう検討を要する。 ②HPの充実に向けて工夫する必要がある。	①感染対策のために、ほとんどの地域交流活動が制限されたため、地域との協働、開かれた学校づくりの実現は達成できなかったので、次年度はより多くの地域との協働活動を実践することが課題である。 ②CMSによるホームページでは、コロナ関係や臨時休業中での生徒・保護者向けの情報を効果的に発信できた。今後、多くの教員によりホームページの充実のために学校の活動の様子等を十分に発信していくことが必要である。	①地域、PTA, 同窓会との連携をさらに推進し、家庭や地域から協力を得やすい体制を構築する。 ②各グループの担当者がホームページ上に自ら記事を作成し掲載できるようにマニュアルを作成し、研修を実施することでホームページの充実を図る。閲覧しやすく、本校の特色や魅力を十分に配信できるよう、学校HPの内容を一層充実させるようにする。
５	学校管理 学校運営	①学校運営協議会を活用しながら地域との連携・協働を推進し、地域とともに歩む学校づくりを推進する。 ②定期的に不祥事防止研修会を実施し、教職員の危機管理意識を高める。 ③生徒と向き合う時間を確保するために、教員の働き方改革を推進する。	②不祥事防止ゼロプログラムに基づき、不祥事防止研修会を実施し、事故不祥事やハラスメントの根絶に向け取り組む。 ③時間外勤務の縮減と勤務時間の平準化に向け、業務体制を工夫する。	②マニュアルやルールに則った業務遂行、個人情報の適切な取扱い、人権に配慮した職務行動等を徹底する。 ③ICTを活用した校務の効率化を図る。 ③会議の精選や会議時間の短縮に取り組む。	②事故不祥事やハラスメントに対する意識が高まり、未然防止につながったか。 ③ICTの活用を推進し、校務の効率化を実践できたか。 ③勤務時間内の会議の遵守割合が上がったか。	②職員会議で毎回不祥事防止研修会を実施し、チェック式のワークシートを全職員に提出させた。 ③生徒の健康観察にＩＣＴを活用した。 ③会議開始・終了の時間厳守を推進していた。	②不祥事防止に全職員で取り組むため研修会等を継続する。 ③ICTによる業務の効率化を進め、会議内容の精選や勤務時間の遵守により一層積極的に教員の働き方改革に取り組む。	③高校のICT活用が、コロナの影響で急激に進んだ。生徒と向き合う時間の確保で教員の働き方改革の取組を進めたことは評価できる ③生徒の健康観察のICT活用は継続してほしい。業務改善、効率化のためのICT活用は、対人時間の確保のために必要であり、より一層の工夫が必要である。	②　事故不祥事やハラスメントについて研修会を実施したが、一人ひとりの教職員がわがこととして自らの行動を振り返り、未然防止につながるように、個々の意識を一層高める必要がある。 ②事故対策について、ミスの防止とミスが起きても事故に発展させないことを念頭に取り組むことが課題である。 ③生徒の毎朝の健康観察をICTにより行ったり、電子掲示板の活用を進めたりして、打合せ時間を確保した。より一層の工夫をして働き方改革を進めることが課題である。	②個人情報の適切な取扱、人権に配慮した職務行動、事故不祥事やハラスメントに対する意識を高めるために、定期的な研修を継続する。 ③ICT活用、グループの業務見直し、業務マニュアルの作成、衛生委員会での情報共有、産業医からの指導助言等を通して、時間外勤務の軽減や効率的な業務遂行等の働き方改革に精力的に取り組むよう、適切な体制を構築する。